

I. 広東省

1. 反腐敗にかかる処分

●先頃、省人民検察院管轄下の雲浮市人民検察院は、李進明・元広晟資産経営有限公司董事長（正庁級）を収賄罪の疑いで立件・調査するとともに、強制措置を施したと発表（10月13日付『広州日報』）。

※広晟資産経営有限公司：広東省政府国有資産監督管理委員会が監督・管理する大型国有企業の1つ。本年5月、同会社の董事長から珠海市長に就任した李沢中氏も9月2日に重大な紀律違反で調査されていることが明らかになっている。

2. 省党常務委員会議の開催

●9日午前、胡春華・省党書記主宰の上記会議で、第14回精神文明建設「5つの分野における1番の選出プログラム」表彰座談会の精神を伝達・学習するとともに、「新たな時代の陳情対応を更に強化し、改善していくことに関する意見」、「広東省における民衆の陳情・申し立てを解決したことに対する評価弁法」について審議し採択。更に、末端の医療・衛生サービス能力の強化、環境保護に関する中央による査察後の改善取組みの進捗状況について聴取（10月10日付『南方日報』）。

3. 省政府常務委員会議の開催

●9日午後、馬興瑞・省長主宰の上記会議で、省による重要な科学技術の成果を産業化するにあたっての支援とリード、法人データの科学的管理・運用の推進について検討・手配した（10月10日付『南方日報』）。

4. 第3回中国・ロシア中小企業実業フォーラムの開催

●9日、広州市で中露友好・平和・発展委員会共催の上記フォーラムが開催され、中国側主席の戴秉国・前国務委員、ロシア側主席のボリス・チトフ氏（企業家権利保護担当大統領全権代表）、袁宝成・副省長等600人余りが開幕式ならびに全体会議に出席（10月10日付『南方日報』）。

5. 第14回中国国際中小企業博覧会の開催

●10日午前、胡春華・省党書記、苗圩・工業・情報化部長、馬興瑞・省長が上記博覧会に出席し、国内外の来賓と会談するとともに、会場を見学した。同博覧会には南アフリカ、国連工業開発機関（UNIDO）、エジプト、マレーシア、ギリシャ、アラブ首長国連邦、ポーランド、香港等30以上の国と地域から3000社以上の企業が出展し、展示ブース数は6282、参加登録したバイヤー数は1万2000人以上だった（10月9日付『広州日報』、11日、14日付『南方日報』）。

●10日午後、上記博覧会で「新思考・新原動力・新製造」をテーマとする中国中小企業サミット・フォーラムが開催され、張峰・工業・情報化部党組織メンバー兼主任技師、袁宝成・副省長、南アフリカ小企業発展相、UNIDO管理局长が出席するとともに挨拶を行なった。張主任技師は挨拶の中で、中国政府が改訂して発表した「中華人民共和国中小企業促進法」等、多くの措置について紹介（10月11日付『南方日報』）。

6. 第3回中国（広東）国際「インターネットプラス」博覧会の開催

●12日午前、仏山市で上記博覧会が開幕し、袁宝成・副省長が開幕式に出席するとともに、会場を見学した。同博覧会にはファーウェイ（華為）、ミデア（美的）、独クーカ、DJI等、国内の著名企業600社以上が出展。また、ファーウェイと南海区政府の「スマートシティ及びビッグデータ産業協力枠組み」をはじめ、20の重要プロジェクトが署名され、投資総額は約829億元だった（10月12日付『南方日報』、『広州日報』、13日付『南方日報』）。

7. 許瑞生・副省長がスペインの建国レセプションに出席

●12日、在広州スペイン総領事館の招きを受け、許瑞生・副省長が上記レセプションに出席。2016年、広東省とスペインの貿易総額は約58億米ドルで、全国の5分の1を占めた（10月13日付『南方日報』）。

II. 広州市

1. 世界環境学者大会の開催

●9日、南沙新区で上記大会が開幕し、30以上の国の環境学者、国内の環境分野の専門家、企業家200数人が出席し、グローバルな環境ガバナンスという壮大な計画について協議した。蔡朝林・南沙区党書記等が出席するとともに挨拶を行なった。これは1997年に「地球環境概観」第1巻が発表されてから中国で開催される初の執筆者世界大会となる。同大会で、UNEP、南方（南沙）国際生産能力・技術協力センター、国家電力投資集団北京電力有限公司（SPIC）が、共に「‘一帯一路’グリーン・イノベーションセンター」を立ち上げる意向書に署名（10月10日付『広州日報』）。

2. 2017広州タワー科学技術大会の開催

●12日午前、上記大会（グローバル・モバイル開発者大会ならびにAIサミット・フォーラム）が開幕し、温国輝・市長、IDG資本グローバル董事長が出席するとともに挨拶を行なった。本大会ではAIに焦点を当て、1つのメインフォーラムと13の分科会が開催された。テーマはインターネット+スマート医療産業、情報化教育のトレンド分析、AI+工業デザイン、フィンテック、ネットワークとコンピューター・セキュリティ技術等（10月11日、13日付『広州日報』）。

3. 第122回秋期広州交易会が開幕

●15日、第122回秋期広州交易会が開幕。14日晚、開幕レセプションが開催され、陳雲賢・同交易会副主任、王受文・商務部副部長が出席するとともに挨拶を行なった。温国輝・市長も出席（10月15日付『広州日報』）。

III. 深圳市

1. 第12回深圳国際物流・交通運輸博覧会（物流博）の開催

●12日午前、上記博覧会が開幕し、劉小明・交通運輸部副部長、王偉中・市党書記、陳如桂・市長、独ハンブルグ港務局長、ラトビア鉄道総公司総裁等の来賓が開幕式に出席するとともに、会場を見学した。同博覧会には世界50数か国・地域から約1900社が出展。また、期間中、フォーラム、特別イベント、需要と供給のマッチング会等も開催され、多数の世界の同業界関係者や専門家が、グローバル・バリューチェーン、サプライチェーン、物流、インターネット、スマート製造等のテーマをめぐって議論・意見交換を行なった（10月12日、13日付『深圳特区報』）。

●12日、上記博覧会に出席した14の深圳国際友好港と深圳港が「深圳宣言」を発表した。同宣言では次のように述べられている。ビッグデータ、IoT（モノのインターネット）、クラウド・コンピューティングといった先進技術の革新・応用が港の情報化、スマート化発展をリードし、「IoT+港湾」を代表とするスマート港湾という新たな形態はすでに未来の港湾発展の重要な方向性となっており、「一帯一路」イニシアチブが港湾の国際協力に新たなチャンスを作り出している（10月13日付『深圳特区報』）。

※深圳港の友好港：ベルギーのアントワープ港とジューブルージュ港、韓国の釜山港と仁川港、ポーランドのグダニスク港、マレーシアのクラン港、オランダのロッテルダム港、イタリアのタラント港、スペインのバルセロナ港、スリランカのコロポ港、ドイツのハンブルグ港、インドネシアの国営海岸管理公社II（Pelindo II）、ラトビアのリガ港、オマーンのソハール港。

2. 市党常務委員会、改革の全面深化に関する指導グループ会議の開催

●13日午前、王偉中・市党書記主宰の上記会議で、当面の全市重点業務について検討・手配。会議では、各レベル・各部門は習近平・総書記の一連の重要講話の精神と党中央の政治運営に関する新理念・新思想・新戦略を深く貫徹し、「4つの意識」を更に強化し、各種業務に全力でしっかりと取り組み、充実した気持ちと優れた成果を持って、第19回党大会を勝利のうちに迎えようと強調（10月14日付『深圳特区報』）。

3. 南嶺村党員・民衆が習仲勳同志の記念写真展を鑑賞

●10月15日は習仲勳同志生誕104周年である。14日、龍崗区南嶺村の多くの党員・民衆が集まり、習仲勳同志が若い頃、同村を視察に訪れた際に写した貴重な写真を鑑賞し、習同志が党、国、民族、そして特に広東の改革開放事業のために取り組んだ永遠の功労を心から偲び、尊敬と懐古の念を表した（10月15日付『深圳特区報』）。